

令和元年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

～再び訪れたくなる、住みたくなる、自慢したくなる“ゆら”～

受賞団体：由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」（山形県鶴岡市）

◆むらづくりの背景・経緯

鶴岡市は山形県西部に位置し、南部は新潟県に接している。

由良地区は、レジャーの多様化等により 80 軒程あった民宿・旅館・ホテルが 10 軒に減るとともに、漁協組合員が激減し漁業離れが顕在化していた。こうした状況に危機感を覚えた若手有志が平成 19 年に『チーム TARA』を結成、由良地区を漁村として維持していくための活性化と新たな地域づくりを図るべく自治会、観光協会、県漁協等に呼びかけ平成 21 年に由良地域協議会『ゆらまちっく戦略会議』を設立した。

◆むらづくりの内容

○漁業生産面

これまで、東北地方で注目されてこなかった魚（トラフグ、マフグ等）やブランド化した庄内おぼこサワラを提供発信したことにより、山形市や仙台市その他、豊洲市場にまで販路が広がっている。

『ゆらまちっく海鮮レディース』は、商品価値が低い小鯛やタナガダコの加工食品開発・販売により所得を向上させるとともに、魚の料理教室開催や魚図鑑『浜のごっつお』発行等により魚食の普及拡大を図っている。



○生活・環境整備面

漁業・漁村への関心を高めるため、小中学生向けの漁業体験メニューを提供するとともに、由良港で行われている 11 種類の漁法を伝える DVD を作成、鶴岡市に寄贈し、市内 30 全ての小学校で教材として活用されている。メニュー体験者の中から、由良に移住した漁業者や漁業を学ぶため水産高校に進学する若者が現れている。

神社・お寺の催事や地域に伝わる八乙女伝説を映像化し、次世代に継承している。

海水浴シーズンを避けた時期のイベント開催、海岸のゴミ拾いのスポーツ化等により交流人口の拡大と周年確保に取り組み、ツーリズム利用者を 1,200 人にまで拡大した。なお、体験メニュー提供にあたり、自然体験活動指導者や救急救命士等の資格を取得し、受入側の人材育成と体制を整えている。

